

平成 28 年 4 月 15 日

各 位

会 社 名 日本ライフライン株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木啓介
 (コード番号 7575)
 問合せ先 取締役管理本部長 山田健二
 (TEL. 03-6711-5200)

特別損失の発生（個別）および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 3 月期決算において、下記のとおり子会社株式の減損による特別損失を計上するとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 4 月 30 日に公表した通期業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。なお、当該減損損失の連結業績への影響はありません。

記

1. 個別業績における特別損失の計上について

当社は、平成 22 年に自社製品の製造拠点の一つとして SYNEXMED (HONG KONG) LIMITED (以下「SYNEXMED 社」という) を子会社化し、生産能力を拡張するために設備投資を行ってまいりましたが、当初計画に比べて同社における生産数量が下回っていることから債務超過の状態にあります。そのため平成 28 年 3 月期決算において、同社株式の減損処理による投資有価証券評価損 510 百万円、同社の債務超過額に対する貸倒引当金繰入額 65 百万円を特別損失として計上する予定です。

なお、SYNEXMED 社は当社の 100% 連結子会社であるため、本減損および引当処理が連結業績に与える影響はありません。

2. 平成 28 年 3 月期業績予想の修正

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 3 月期業績予想を以下のとおり修正いたします。

平成 28 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する当期 純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-----------------------------|---------------|--------------|--------------|-------------------------|-----------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 29,584 | 百万円 2,785 | 百万円 2,829 | 百万円 2,171 | 円 銭 113.68 |
| 今回修正予想(B) | 30,540 | 3,700 | 3,580 | 2,749 | 143.91 |
| 増減額(B-A) | 956 | 914 | 750 | 577 | |
| 増減率(%) | 3.2 | 32.8 | 26.5 | 26.6 | |
| (ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期) | 25,696 | 1,845 | 2,037 | 1,124 | 52.06 |

平成 28 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-----------------------------|---------------|--------------|--------------|-----------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 28,049 | 百万円 3,032 | 百万円 2,562 | 円 銭 134.16 |
| 今回修正予想(B) | 29,248 | 3,584 | 2,150 | 112.58 |
| 増減額(B-A) | 1,198 | 552 | 412 | |
| 増減率(%) | 4.3 | 18.2 | 16.1 | |
| (ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期) | 24,303 | 2,089 | 1,242 | 57.52 |

当社は、平成 27 年 10 月 1 日を効力発生日として、普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益金額を算定しております。

修正の理由

【通期連結業績予想】

連結業績予想の修正につきましては、下記の個別業績予想の修正の要因に加え、子会社におきましても利益率の高い商品の売上構成比が上昇したこと等により、売上総利益率が計画に比べ改善し、営業利益以降の各段階利益においても計画を上回る見通しとなりました。なお、連結業績におきましては、個別業績における子会社株式の減損の影響が無いことから、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても計画を上回る予定です。

【通期個別業績予想】

販売面におきましては、オンリーワン製品を中心に自社グループ製品が好調に推移したことに加え、当初計画には見込んでいなかった腹部用ステントグラフト「AFX」を本年 1 月より販売開始したこと等が寄与し、売上高は計画を上回る見通しとなりました。

また、販売費及び一般管理費におきましては、治験等の薬事関連費用の執行が遅れている一方、自社製品の開発を計画より前倒ししたことから、開発費用が計画に比べ増加していること等により、販売費及び一般管理費全体としては計画を上回る見通しとなりました。

以上により、営業利益および経常利益におきましては計画を上回る見通しとなったものの、子会社株式に対する減損処理等による特別損失の計上により、当期純利益におきましては計画を下回る見通しとなりました。

(注)上記の業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により業績予想と異なる可能性があります。

以 上